ANNUAL REPORT
2022

CPアソシエイト及びCP授与者のこれまでの就職先（今年度内定を含む）

●公務員
国土交通省 東北地方整備局
岩手県
石巻市(宮城県)
大館市(秋田県)
柏崎市(新潟県)
大和町(宮城県)
登米市(宮城県)
千葉県
栗原市(宮城県)
仙台市(宮城県)
多摩市(東京都)
宮城県
福島県
東北運輸局
米沢市(山形県)

●教育・医療・研究機関
京都大学医学部付属病院
国立大学法人東北大学
東北大学病院
国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構

●金融関係
(株)荘内銀行
東北労働金庫
盛岡信用金庫
(株)北日本銀行
古川信用組合
(株)七十七銀行
宮城第一信用金庫
(株)青森銀行

●企業・団体
会津よつば農業協同組合
(JA会津よつば)
伊藤建設(株)
NECネットイノベーション(株)
NTT東日本(株)
(株)奥羽木工所
大蔵山スタジオ(株)
(株)コメリ
JA東日本くみあい飼料(株)
鈴木農場
(株)ソルブレイン
(株)DNPデジタルソリューションズ
(株)TTK
(株)東広社
東北電力(株)
なんと農業協同組合(JAなんと)
日鉄日新製鋼(株)
パーソルプロセス&テクノロジー(株)
(株)ピーエス三菱
福山通運(株)
マックスバリュ南東北(株)
三井住友海上火災保険(株)
ヤマカノ醸造(株)
ヤマニ建設(株)
自営業
イオンリテール(株)
エームサービス(株)
オリジン東秀(株)
カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)
国分東北(株)
太子食品工業(株)
東日本旅客鉄道(株)
富士通Japan(株)
ベイシス(株)
丸西産業(株)
宮城県商工会連合会
宮城県信用保証協会
(株)トラストライフ
(株)Wiz
(株)おおみ
(株)クスリのアオキ
(株)スズキ自販宮城
(株)ゼウス・エンタープライズ
(株)パル
(株)メンバーズ
(株)サングリン太陽園
(株)ケアリッツ・アンド・パートナーズ
(株)東流社
(株)イーストン
こころネット(株)
(株)加島屋
イオン東北(株)
(株)インターレイズ
(株)KDDIエボルバ 仙台センター
日本住宅(株)
エン・ジャパン(株)
アイ・ティー・エックス(株)
東京システムハウス(株)
データコム(株)
(株)藤崎
(株)カチタス
(株)NEXTスタッフサービス
中央開発(株)
東急リバブル(株)
(株)SJC
東北放送(株)
中央システム(株)
トランスコスモス(株)
JR東日本東北総合サービス(株)
アイリスオーヤマ(株)
東北インテリジェント通信(株)
(株)英進
総合キャリアグループ
(株)マクロミル
住友生命保険(株)
須賀川特撮アーカイブセンター
三菱重工エンジンシステム(株)
野口倉庫 (株)
石巻商工会議所
DCM (株)
日本電設工業 (株)
WHILL (株)
ITXコミュニケーションズ (株)
(株) ヨークベニマル
みやぎ生活協同組合
JA 福島さくら農業協同組合
カメイ (株)
(株) SKホールディングス
(株) オオバ
三菱電機住環境システムズ(株)
(株) ピーシーデポコーポレーション

公立大学法人
宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

お問い合わせ
宮城大学 地域連携実践教育推進室
大和キャンパス
宮城県黒川郡大和町学苑1-1 TEL:022-377-8649
Email : cp-suishins@myu.ac.jp (受付時間／平日9:00～17:00)

ANNUAL REPORT 2022

宮城大学 フィールドワーク系科目

地域連携実践教育プログラム アニュアルレポート 2022

宮城大学 地域連携実践教育推進室

公立大学法人
宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

地域とともに学ぶ。

地域とともに育む未来 ー東北から発信する持続可能な地域・コミュニティー

東日本大震災から12年を迎えます。私たちの目に映る震災復興はほぼ完成したかに見えますが、「心の復興」を含めた真の復興は、まだ道半ばと言えるでしょう。震災は地域に甚大な被害を与えましたが、その一方で、私たちに「地域・コミュニティの価値」や「人と人の関わり・つながりの重要性」を再認識させる契機となりました。また、いくつかの被災地においては、復興をきっかけとした新たな取り組みの中で「希望」も生まれてきています。

コミュニティ・プランナープログラムは、阪神・淡路大震災の復興に取り組む兵庫県立大学と東日本大震災の震災復興に取り組む宮城大学が連携し、地域に根ざす公立大学として、これからの地域の担い手を育てていく「地域連携実践教育プログラム」です。本プログラムは、文部科学省の補助事業としてスタートし、2017年度の大学改革において、全学群必修科目の地域フィールドワーク、コミュニティ・プランナープログラムとして再構築され、6年目を迎えました。人口減少時代というかつて経験したことのない未知の世界に入り、大学は地域の未来を牽引する「知の拠点」として機能を果たしていかなければなりません。地域の未来を担う人材の育成は、大学にとっても喫緊の課題です。本プログラムは、こうした地域の期待を踏まえながら、学生が地域と共に学び、その経験を地域に還元していくための実践的な教育プログラムとなっています。学生自らが地域の課題を発見し、様々な学習を踏まえて、地域の解決策を提案していく力を得ていくことが本プログラムの目的です。本プログラムを履修した学生は、全課程を修了すると、卒業時に「コミュニティ・プランナーアソシエイト」が授与されることになります。また、大学院プログラムを履修した学生には修了時に「コミュニティ・プランナー」が授与されます。

2022年は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響が続き、宮城県のみならず全国各地、全世界の人々の生活と社会に大きな影響と変化が及びました。宮城大学では、遠隔会議システムを有効に活用しながら、対面を基本とした講義を実施しており、「with コロナ」時代における新たな地域連携のあり方を模索し展開する挑戦の年となりました。これからも、これらの経験を踏まえ、宮城県や被災地の自治体、NPO、企業、市民団体等と連携を深めつつ、創造的復興の実現と持続可能な地域創造に資する人材育成を目指していきます。地域連携実践教育プログラムから輩出される地域人材は、東北の未来を創造していく重要な礎となっていくでしょう。

宮城大学
地域連携実践教育推進室長 **郷古 雅春**

学群を横断し、さまざまな教員が関わり運営しています

» 2022年度 地域フィールドワーク 科目担当教員

郷古 雅春教授／安齋 由貴子教授／大熊 恵子教授／平岡善浩教授
千葉 克己教授／小林 仁教授／西川 正純教授
佐々木 秀之准教授／鳥羽 大陽准教授／紺屋 直樹講師
山本 文枝助教／佐藤 泰啓助教／千葉 洋子助教／大橋 幸恵助教
友渕 貴之助教／中沢 峻助教／滝口 沙也加助教

» 地域連携実践教育推進室

青木 茂特任調査研究員

» 2022年度 コミュニティ・プランナー科目 担当教員

看護学群	安齋 由貴子教授／大熊 恵子教授
事業構想学群	郷古 雅春教授／平岡 善浩教授／千葉 克己教授 佐々木 秀之准教授／友渕 貴之助教／中沢 峻助教
食産業学群	川島 滋和教授／小林 仁教授／森本 素子教授 阿部 希望助教／片山 亜優助教
基盤教育群	阿部 晃成特任助教／田澤 紘子特任助教

地域連携実践教育について

地域連携実践教育とは

宮城大学では、地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人びとともに課題解決ができる人材(コミュニティ・プランナー)の育成を目指す教育プログラムを実施しています。主に「講義(座学)+フィールドワーク(実践)」の形式で学びを深めていきます。地域コミュニティの現場に触れ、自らの目でみて・聞いて・体験し、学習することで、地域の人びとともに考えながら、地域本来の良さを活かした、これからのコミュニティづくりの実践手法を習得していきます。

コミュニティ・プランナー / コミュニティ・プランナー(CP)プログラム

現在、公共機関のまちづくり分野、福祉や医療、商業や農業など、あらゆる分野において、地域主体の視点を持った人材が求められています。本プログラムでは、コミュニティ・プランナーとして、地域が抱える多様な課題の解決や、地域が求める多様なコミュニティづくりに貢献できる人材の育成を目指し、教育プログラムを展開しています。

カリキュラム概要

単位について

学群プログラムについては、基盤教育科目の「地域フィールドワーク」1科目1単位、CP科目の「CP概論及び演習」「CP実践論」「CPフィールドワーク演習」の3科目6単位、各学群既存科目である「CP関連科目」のうち2領域以上から6科目12単位以上を履修します。合計20単位以上を履修することで卒業時に宮城大学と兵庫県立大学の連名で『コミュニティ・プランナーアソシエイト』の称号及び証書が授与されます。

大学院プログラムについては、「CP特別演習」「CPプロジェクト研究」の2科目4単位を履修することで修了時に両大学の連名で「コミュニティ・プランナー」の称号及び証書が授与されます。

GREENの視点

持続可能な地域コミュニティを構築し、維持していくためには、緑ある環境をベースにして、人、植物、動物、全ての生命(いのち)がつながり、関わり合うことが必要です。このような、すべての生命(いのち)のつながり、関わりを意味するものを「GREEN」として、本プログラムにおける新視点として設定しています。

宮城県内自治体との連携

地域連携実践教育プログラムの開講科目では、フィールドとして宮城県内各地の自治体にご協力をいただき、講義を実施しています。フィールドワークでの調査やヒアリング、自治体職員や地域の方からのレクチャーなど、地域との連携を深めながら実践的な学びのプログラムを展開しています。

2014年（平成26年度）

大崎市（古川）	CP概論／CP基礎演習

2015年（平成27年度）

大崎市（鬼首）	CP概論／CP基礎演習
大崎市（古川）	CP実践論

2016年（平成28年度）

大崎市（岩出山）	CP概論／CP基礎演習
大崎市（鬼首）	CP実践論
大崎市（古川）	CPFW演習

2017年（平成29年度）

大和町	地域FW
富谷市	地域FW
利府町	地域FW
蔵王町	地域FW
大崎市（岩出山）	CP実践論
大崎市（鬼首）	CPFW演習

2018年（平成30年度）

美里町	地域FW／CP実践論
東松島市	地域FW
加美町	地域FW
岩沼市	地域FW
白石市	地域FW
村田町	地域FW
丸森町（耕野）	CP実践論
大崎市（岩出山）	CPFW演習

2019年（令和元年度）

大崎市（松山）	地域FW／CP実践論
加美町	地域FW
美里町	地域FW
女川町	地域FW
亘理町	地域FW
白石市	地域FW／CP実践論
石巻市（牡鹿）	CP概論及び演習／CP実践論
富谷市	CP実践論
大崎市（古川）	CPFW演習
大崎市（鳴子）	CPFW演習
仙台市	CPFW演習
丸森町	CPFW演習

2020年（令和2年度）

大崎市（田尻）	地域FW
女川町	地域FW
亘理町	地域FW／CP実践論
白石市	CP実践論／CPFW演習
富谷市	CPFW演習
石巻市（牡鹿）	CPFW演習
大崎市（古川）	CPFW演習
仙台市（中心街、根白石、坪沼）	CPFW演習

2021年（令和3年度）

大崎市（鹿島台）	地域FW
女川町	地域FW
亘理町	地域FW／CPFW 演習
七ヶ浜町	CP実践論
村田町	CP実践論
栗原市	CPFW演習
東松島市	CPFW演習
富谷市	CPFW演習
仙台市（根白石、人来田）	CPFW演習
名取市（閖上）	CPFW演習

2022年（令和4年度）

大崎市（三本木）	地域FW
女川町	地域FW
村田町	地域FW
亘理町	地域FW
柴田町	CP実践論
仙台市（秋保）	CP実践論
石巻市（市内、雄勝）	CPFW演習
大崎市（岩出山）	CPFW演習
蔵王町	CPFW演習
利府町	CPFW演習

宮城大学と兵庫県立大学との連携

大きな自然災害を経験した兵庫県立大学と宮城大学が、密接な連携体制のもと、コミュニティ・プランナープログラムの構築を進めてきました。現在でも被災地に立地する公立大学として互いの強みを生かし、プログラムを共同で展開しています。

兵庫県立大学

- 神戸商科キャンパス（大学本部・経済学部・経営学部 ほか）
- 姫路工学キャンパス（工学部 ほか）
- 播磨理学キャンパス（理学部 ほか）
- 姫路環境人間キャンパス（環境人間学部 ほか）
- 明石看護キャンパス（看護学部 ほか）
- 淡路緑景観キャンパス（緑環境景観マネジメント研究科 ほか）（ほか、9つのキャンパス）

宮城大学

- 大和キャンパス（事業構想学群・看護学群）
- 太白キャンパス（食産業学群）

2022年度前期〈1年次 全学群必修科目〉

地域フィールドワーク

- ●対面講義　●指定日開講・集中講義
- ●全4回　●履修学生：452名

フィールドから学びや気づきを得る。

宮城大学における基盤教育に位置づけられ、1年次の全学群必修科目として開講しています。この科目では、地域の自然・歴史・文化等を学びながら、グループワークやフィールドワークを通して地域の魅力や課題など、様々な気づきを促します。そして、地域社会の将来に対する使命感を涵養し、今後の大学生活における主体的な学びに向けた動機づけとすることも目指しています。

2022年度は、大崎市（三本木地域）、女川町、村田町、亘理町の4自治体をフィールドとしました。自治体のご協力のもと、看護学群、事業構想学群、食産業学群の学生452名が受講し、フィールドと関わりながら学びや気づきを得ました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策をしっかりととりながら、対面での講義を実施しました。本講義では、地域の事業者等へのインタビューで構成する教材動画の視聴を取り入れながら、自治体職員の方々とのディスカッション、学生同士によるグループワークをはじめ、学生各自が設定したテーマから地域を捉え、基礎的な調査に取り組みました。また、本科目のメインプログラムである現地フィールドワークを行い、公共施設、企業、住民団体、NPO等を訪問し、地域の魅力や課題を調査しました。グループごとに調査を振り返り、フィールドワークで得た成果や課題等を確認・共有しました。講義の総括として、テーマ設定の背景・目的・調査結果・分析等をまとめた「地域調査のまとめ」を作成し、プレゼンテーションを行いました。

2022年度前期〈2年次全学群共通選択科目〉

CP概論及び演習

●対面講義　●毎週水曜5限開講
●全15回　●履修学生：75名

必要な基礎知識の習得

コミュニティ･プランナープログラムの2年次前期の科目として開講しています。この科目では、調査･企画力、ワークショップ運営やヒアリング技術など、コミュニティ･プランナーとしてフィールドに出た際に必要なリテラシーを学び、地域の方々のパートナーとして課題解決に貢献できる基礎知識の習得を目指します。

前半の講義では、さまざまな地域コミュニティのあり方を学びながら、学生自身とコミュニティとの関わり方について個人ワークで検討し、コミュニティ･プランナーの役割や姿勢について捉えていきました。また、地域の現状を把握する手法を、地形･空間･生活の視点でそれぞれの専門分野の教員から学びました。さらに、地域の活動者をゲストに招き、活動のきっかけや想い、捉えている課題、活動の仕組み、地域との関わり方等をうかがい、コミュニティ･プランナーのイメージを掴んでいきました。

これらを踏まえて後半では、地域におけるプランニングに必要なリテラシーの一つである「プロジェクトマネジメント」を学びながら、グループごとにプロジェクトを具体的に検討していきました。その過程を通して、プランニングの基本的な手法や考え方について理解を深めていきました。グループワークでは、ファシリテーションや議論の可視化にも注力し、現場で活用できる技術の習得にも努めました。

2022年度後期〈2年次全学群共通選択科目〉

CP実践論

●対面講義　●毎週水曜3限開講
●全15回　●履修学生：39名

トップランナーから実践を知る

「CP概論及び演習」に続く2年次後期の科目として開講しています。地域コミュニティに関わる専門家とのフィールドワーク、類似事例の把握や現場での体験を通して、地域活性化策を実行するプロセスへの理解を深め、より実践提案知識や技術の獲得と学びの深化をねらいとしています。

2022年度の履修学生は、大和キャンパスは柴田町を、太白キャンパスは仙台市秋保地域を対象に講義を進めていきました。前半では、各自治体の職員の方々や地域づくりの実践者によるレクチャーを通して、対象エリアの理解を深めるとともに、現状の課題を整理しながらコミュニティ･プランナーの果たすべき役割についてグループで検討を重ねました。サイトビジットでは、事前調査を踏まえて、現場でしか得られない情報を収集するために、対象エリアを歩いたり、地域住民の方々にヒアリングを行う等、さまざまなアプローチを行いました。現場で得た情報を踏まえて、地域コミュニティの豊かな活動が地域の活性化につながるよう、具体的なプロジェクトの検討を進めました。後半では、グループワークにおけるアイデアの創出方法や、企画から提案までのプロセスを学び、その成果をプロジェクト立案に活かす実践的な学習を蓄積していきました。最終講義では、お世話になった地域の方々への成果報告の場としてグループごとに発表が行われ、実施に至る背景や必要性、地域コミュニティの関わり方を含めたプロジェクト提案を行いました。

2022年度前期〈3年次全学群共通選択科目〉

CPフィールドワーク演習

●対面講義　●指定日開講・集中講義
●全15回　●履修学生：17名

知能を技能に変える実習

CPプログラムの学群教育における最終科目として開講しています。コミュニティ再生の実践的経験を通じて、コミュニティ・プランナーとしての職能を理解しつつ、様々なステークホルダーとの協働手法を習得することを目指しています。

本科目の履修学生は、大和・太白両キャンパス合わせて5つのグループを編成し、大崎市岩出山地域、石巻市中心部、石巻市雄勝地域、蔵王町、利府町を対象に、地域課題を把握した上でコミュニティ・プランナーとしてのアプローチを実践していきました。

グループごとに設定したテーマに基づいてフィールドワークを重ね、地域のさまざまな資源に触れながら、プロジェクトの内容を磨いていきました。

併せて、プロジェクトの実施に向けた地域のステークホルダーとの連携にも、学生が主体性を持って取り組んでいきました。また今年度は、新型コロナウィルス感染症対策をとりながら、一般の方々を対象とした対面によるイベントの開催に挑戦するチームもありました。社会状況に応じて、地域のステークホルダーとともに話し合いながら、より良い方法を模索していく経験は、学生にとっても有意義な実践となりました。

地域との関係を育みながら進める本科目のプロジェクトのあり方は、学生にとってはコミュニティ・プランナーとしての気づきや学びを実践的に深める機会となり、講義終了後も研究や活動を通して自主的に地域との関わりを継続する動きもみられています。

活動実績・メディア掲載

2017年（平成29年度）

WEB媒体(自治体)

▶大和町Webサイト掲載
宮城大学地域フィールドワーク「宮城大学生がまち歩きを実施」
https://www.town.taiwa.miyagi.jp/soshiki/matisei/5419.html
(地域フィールドワーク)
▶富谷市Facebookページ掲載 6月17日、7月1日、7月8日、8月8日(地域フィールドワーク)
▶大崎市Webサイト掲載
大崎市 フォトニュース「宮城大学生が大崎市の地域活性化のため活動しました」
http://www.city.osaki.miyagi.jp/index.cfm/35,22400,html(CP科目)

自治体広報誌

▶広報たいわ 8月号掲載「宮城大学生がまち歩きを実施」(地域フィールドワーク)
▶広報りふ 8月号掲載「利府町×宮城大学 連携事業 地域フィールドワーク」
▶広報たいわ「たいわのわ」連載 2017年10月号～2018年2月号
(地域フィールドワーク7月1日講義)

テレビ

▶東北放送 Nスタみやぎ 2017年7月1日放送
(地域フィールドワーク7月1日講義)

新聞

▶河北新報 2017年8月21日掲載(地域フィールドワーク8月8日講義)
▶日本経済新聞 2018年1月27日掲載 (地域フィールドワーク)
▶日本経済新聞 Web版 2018年1月27日掲載 (地域フィールドワーク)
▶河北新報 2018年1月28日掲載(復興人材育成セミナー)

事例集

▶一般社団法人公立大学協会(2018)
「『公立大学の地域貢献機能 地域貢献プログラムの"LEAD"による事例分析』
p.9 宮城大学 自治体との協働による被災地域の復興・再生・発展を担う人材育成プログラム」

2018年（平成30年度）

WEB媒体(自治体)

▶白石まちづくり株式会社 蔵富人
Facebookページ掲載 6月6日(地域フィールドワーク)
▶美里町 起業創業サポートセンター kiribi Facebookページ掲載
4月25日、6月6日(地域フィールドワーク)、10月17日(CP実践論)

自治体広報誌

▶市報ひがしまつしま 7月1日号掲載 (地域フィールドワーク)

テレビ

▶ミヤギテレビ OH!バンデス 2018年6月18日放送
(地域フィールドワーク6月6日講義:東松島でのフィールドワークの様子)
▶東北放送Nスタみやぎ 2018年11月15日放送
(CP実践論11月14日講義:丸森町でのフィールドワークの様子)

新聞

▶河北新報 2018年10月28日掲載(CP実践論10月24日講義:美里町)
▶河北新報 2019年1月18日掲載(CP実践論1月9日講義:最終報告会)
▶河北新報 2019年2月18日掲載
(復興人材育成セミナー2月9日:宮城学院女子大学×宮城大学合同活動報告会)

事例発表等(学会等)

▶郷古雅春・中沢峻・千葉克己・高橋信人・佐々木秀之(2018)
「地域連携型実践教育プログラムと農業農村工学について」農業農村工学会第67回大会講演会
▶髙橋結・佐々木秀之・中沢峻・郷古雅春(2018)
「大学教育における地域系科目の増加とNPOの連携可能性」
日本NPO学会 第20回年次大会
▶髙橋結・佐々木秀之・風見正三(2018)
「サービスラーニング科目における受講者の省察に関する研究」
日本計画行政学会 第41回全国大会
▶髙橋結・中沢峻・佐々木秀之・郷古雅春(2018)
「地域人材育成に向けたアクティブラーニングモデルの構築」『季刊地理学』pp.38-39
▶郷古雅春・佐々木秀之・中沢峻・佐藤加奈絵・髙橋結
仙台防災未来フォーラム2019ブース出展
「宮城大学復興に資する人材育成に向けた地域連携型実践教育プログラム」

2019年（令和元年度）

自治体広報誌

▶広報わたり7月号掲載「地域課題を町歩きで考察　大学生がフィールドワーク」

テレビ

▶Nスタみやぎ2019年6月24日放送
(6月23日被災沿岸フィールドワーク:ポートランド州立大学フィールドワークの様子)

新聞

▶河北新報(石巻かほく)
2019年6月5日掲載(CP概論及び演習5月25日講義:石巻市牡鹿サイトビジット)
▶河北新報 2019年9月8日掲載(学生企画:石巻市牡鹿地区荻浜での企画実施)
▶河北新報(石巻かほく) 2019年9月11日掲載(学生企画:石巻市牡鹿地区荻浜での企画実施)
▶環境新聞(コラム) 2019年9月11日掲載(コミュニティ・プランナープログラムについて)
▶大崎タイムス 2019年11月30日掲載(学生企画:CPFW演習 古川大正浪漫デー)

事例発表等(学会等)

▶中沢峻・髙橋結・佐藤加奈絵・佐々木秀之・郷古雅春 世界防災フォーラム2019 ポスター発表
「Joint Development and Implementation of a Community Engagement Model Practical Education Program Based on Disaster Response Expertise」2019年11月9日～12日
▶中沢峻・髙橋結・佐藤加奈絵・佐々木秀之・郷古雅春 世界防災フォーラム2019 パネル展示
「Learning in tandem with the region: Community Engagement Model Practical Education Program」2019年11月9日～12日
▶宮城大学後援会「結城登美雄氏講演会&パネルディスカッション」
地域連携型実践教育パネル展示 2019年11月9日

2020年（令和2年度）

自治体広報誌

▶市報とみや11月掲載(地域連携型実践教育)
▶広報わたり12月掲載「隠れた魅力を現地で発見」(地域フィールドワーク課外10月31日)

テレビ

▶ミヤギテレビ OH!バンデス 2020年8月20日放送(CPFW演習8月15日:坪沼農園での取材に協力)

新聞

▶河北新報
2020年8月11日掲載(地域フィールドワーク7月29日講義:オンラインによる最終発表会)
▶大崎タイムス 2020年11月2日掲載(学生企画:CPFW演習ふるかわRIDE)

事例発表等(学会等)

▶佐藤加奈絵・中沢峻・髙橋結・友渕貴之・佐々木秀之(2020)
「公共施設の長寿命化計画の策定プロセスにおける産官学連携のあり方に関する一考察―大学でのPBL科目との連携に着目して」日本計画行政学会第43回全国大会

2021年（令和3年度）

テレビ

▶仙台放送 Live News イット!
2021年10月28日放送(CP実践論10月20日:七ヶ浜町でのサイトビジット)

新聞

▶日本農業新聞
2022年1月6日掲載(2021年12月23日JA新みやぎからの奨学寄附金贈呈式)

事例発表等(学会等)

▶中沢峻・青木茂・阿部晃成・佐々木秀之・郷古雅春(2021)
「地域連携実践教育プログラムの共同開発と実践 ―宮城大学・兵庫県立大学におけるコミュニティ・プランナーの育成」第1回全国農泊ネットワーク宮城大崎大会

新聞

▶河北新報 2021年12月10日掲載(学生企画:CPFW演習スマホ体験会)

2022年（令和4年度）

テレビ

▶NHK仙台放送局てれまさむね
2022年5月11日(学生企画:CPFW演習名取市みちのく潮風トレイルGuide Map)

新聞

▶河北新報
2022年4月17日掲載(学生企画:CPFW演習名取市みちのく潮風トレイルGuide Map)
▶石巻日日新聞 2022年9月13日掲載(学生企画:CPFW演習まきぴと図鑑)

事例発表等(学会等)

▶中沢峻・阿部晃成・田澤紘子・青木茂・佐々木秀之・郷古雅春(2022)
「宮城大学地域連携実践教育プログラム 履修者に対する自己評価指標の開発と自己評価の試行」宮城大学研究ジャーナル第2巻第1号
▶中沢峻・阿部晃成・田澤紘子・青木茂・佐々木秀之(2022)
「地域志向教育プログラムの傾向に関する一考察―宮城大学地域連携実践教育プログラムの類似事例を題材として」宮城大学研究ジャーナル第2巻第1号
▶郷古雅春(2022)
「農村地域の振興に向けた大学教育プログラム」農村振興vol.873・全国農村技術連盟
▶佐々木秀之(2022)
「行政と大学の連携」日本マーケティング学会カンファレンス2022・地域活性化マーケティング研究会
▶佐々木秀之・中沢峻(2022)
「地域探究に活かすフィールドワークの実践」株式会社オーナー主催オンラインセミナー

テキスト

▶佐々木秀之・中沢峻編著(2022)
『地域フィールドワーク実践入門―地域探究の道しるべ』蕃山房、2023年3月1日発行

兵庫県立大学との連携

CP科目合同発表会及び交流会

2022年12月25日（日） 10:00-12:10

兵庫県立大学と宮城大学の学生が、遠隔会議システム(Zoom)を使って、CP実践論・CPFW演習の合同発表会及び交流会を実施しました。宮城大学と兵庫県立大学の3年生及び4年生が、講義を通して検討したプロジェクトやプロジェクトの実施による成果を発表したのち、両大学の2年生も交えたグループに分かれ、ディスカッションに取り組みました。

CP科目合同発表会及び交流会(過年度の様子)※2022年度はオンライン開催

地域連携実践教育のあゆみ

2012年（平成24年度）

文部科学省 大学間連携 共同教育事業 採択事業
宮城大学・兵庫県立大学
「コミュニティ・プランナー育成のための実践的教育課程の構築」
試行プログラム(部会活動等)を実施

2013年（平成25年度）

コミュニティ・プランナーカリキュラム検討、試行授業実施
試行プログラム(部会活動・兵庫宮城学生交流会等)を実施

2014年（平成26年度）

CP科目 開講
コミュニティ・プランナー教育センター(CPEC)運営開始
1(2)年次前期 CP概論(大崎市古川地区):履修生144名
1(2)年次後期 CP基礎演習(大崎市古川地区):履修生68名

2015年（平成27年度）

2(3)年次前期 CP実践論(大崎市古川地区):履修生15名
1年次前期 CP概論(大崎市鳴子温泉・鬼首):履修生71名
1年次後期 CP基礎演習(大崎市鳴子温泉・鬼首):履修生37名

2016年（平成28年度）

地域フィールドワークカリキュラム検討開始
(10月部門設置)文部科学省 事業終了
第1期生 卒業・アソシエイト授与者3名
3(4)年次前期 CPFW演習(大崎市古川地区):履修生9名
2年次前期 CP実践論(大崎市鳴子温泉・鬼首):履修生22名
1年次前期 CP概論(大崎市岩出山地区):履修生157名
1年次後期 CP基礎演習(大崎市岩出山地区):履修生81名

2017年（平成29年度）

宮城県「宮城大学復興人材育成事業」にて事業実施
宮城大学 学群学類制移行
1年次 全学必修科目 地域フィールドワーク 開講
第2期生 卒業・CPアソシエイト授与者6名
3年次前期 CPFW演習(大崎市鳴子温泉・鬼首):履修生21名
2年次前期 CP実践論
(大崎市岩出山地区):履修生18名
1年次前期 地域フィールドワーク
(大和町、富谷市、利府町、蔵王町):履修生437名

2018年（平成30年度）

第3期生 卒業・CPアソシエイト授与者20名
3年次前期 CPFW演習(大崎市岩出山地区):履修者12名
2年次前期 CP概論及び演習:履修生60名
2年次後期 CP実践論
(美里町・丸森町耕野地域):履修生43名
1年次前期 地域フィールドワーク
(東松島市・加美町・美里町・岩沼市・白石市・村田町):履修生431名

2019年（令和元年度）

第4期生 卒業・CPアソシエイト授与者12名
3年次前期 CPFW演習
(大崎市鳴子温泉地域、大崎市古川地区、仙台市定禅寺通り、丸森町):履修者31名
2年次前期 CP概論及び演習
(石巻市牡鹿地区):履修者118名
2年次後期 CP実践論
(大崎市松山地区、富谷市しんまち地区、石巻市牡鹿地区荻浜、白石市):履修者63名
1年次前期 地域フィールドワーク
(大崎市松山地区、加美町、美里町、女川町、亘理町、白石市):履修生452名

2020年（令和2年度）

第5期生 卒業・CPアソシエイト授与者30名
3年次前期CPFW演習
(大崎市古川地区、白石市、仙台市泉区根白石地域、富谷市、石巻市牡鹿地区荻浜地域、仙台市青葉区中心街、仙台市太白区坪沼地域)履修者:45名
2年次前期 CP概論及び演習:履修者110名
2年次後期 CP実践論(白石市、亘理町):履修者63名
1年次前期 地域フィールドワーク
(大崎市田尻地区、女川町、亘理町):履修者444名

2021年（令和3年度）

第6期生 卒業・CPアソシエイト授与者44名予定
3年次前期CPFW演習
(栗原市、東松島市、富谷市、仙台市泉区根白石地域、仙台市太白区人来田地域、名取市閖上地域、亘理町荒浜地域)履修者:33名
2年次前期 CP概論及び演習:履修者80名
2年次後期 CP実践論(七ヶ浜町、村田町)履修者:31名
1年次前期 地域フィールドワーク
(大崎市鹿島台地区、女川町、亘理町)履修者:454名

2022年（令和4年度）

第7期生 卒業・CPアソシエイト授与者34名
第1期生 修了・CP授与者1名(大学院プログラム)
3年次前期CPFW演習
(石巻市内、同市雄勝地区、大崎市岩出山地区、蔵王町、利府町)履修者:17名
2年次前期CP概論及び演習:履修者75名
2年次後期CP実践論(柴田町、仙台市太白区秋保地区)履修者:39名
1年次前期地域フィールドワーク
(大崎市三本木地区、女川町、村田町、亘理町)履修者:452名